

2003年
(平成15年)
1月1日 発行

山たけし行村 - 標
連絡先 八丈島八丈町三根 1618 Tel. 04996-2-1600
メール t-kom@beach.ocn.ne.jp
ホームページ <http://home.att.ne.jp/aqua/akn/>

八丈を変えるニュース

新年号(第2号)



帰ってきたコッコメ

八丈町議会議員 小宮山 建

2003年の幕開けを皆さまはどのようにお迎えでしょうか。

深く深く落ち込んで、回復への手がかりも見えない日本経済。八丈島でもNTT営業所の撤退、大型ホテルの倒産など、厳しさがつのるばかりです。しかしこんな時代だからこそ、旧来の手法を根本的に見直し、新時代に適応した対策を見出すことが重要なのではないのでしょうか。

ところで、イタチの導入で一時はほとんど姿が見えなかったコッコメ（アカハラ）が今復活してきています(写真)。聞けば、ロベ（フェニックス）の樹上（トゲの上）に営巣する事を覚え、雛をイタチから守れるようになったとか。小鳥たちも懸命に生き残りの道を切り開いているんですね。

そう言えば、コッコメを救ったこの「フェニックス」の日本語訳は「不死鳥」。フェニックスは「八丈町の木」にも指定されています。復活したコッコメとそれを助けたフェニックスにあやかって、私たち自身の未来が切り開かれることを願わずにはいられません。

トビウオが売れなくなる理由

島内の全ての小、中学生の学校給食をつくっている給食センターを町議会の視察で11月17日に訪ねました。その時の説明で、島内で生産される食材も積極的に利用しているのに、そのうち利用できるのはアシタバや里芋など野菜類だけで、魚介類は使わない、との話がありました。

なぜ島の魚はダメなのか？ それは、魚を子供たちに食べさせるためには、完全に骨を抜かなければならないからだそうです。つまり、子どもたちがノドに骨を刺したらいけないので、完全に骨を抜き去った魚しか出せず、加工済みの島外産のものしか使えない、というのです。

これじゃ、骨を口の中で器用により分けて食べる訓練ができず、魚が好きな子供は育つはずがありません。こんな給食が日本全国で一般化しているなら、そのうち日本は骨付き魚は食べることでできない人間ばかりになってしまいます。そしてスーパーには骨なし切り身魚しか並ばなくなります。たとえ、八丈でトビウオ漁が復活しても、もはや昔のようにそれを大量に消費できるマーケットは日本から消えてしまっているのでしょう。

アロエ畑の草取り



年末から新春にかけて、毎年アロエフェスタが開かれます。その準備として、11月にメイン会場となる永郷のアロエ畑で、数日間をかけて草取り作業が行われました。これは八丈町の委託を受けた観光協会が実施している作業で、シルバー人材センターの皆さんにも応援してもらいながら、観光協会会員のボランティアで行われています。

私も会員の義務を果たすため、11月10日（日）朝から丸1日、勤労奉仕に参加してきました。20名近くの皆さんとともに、アロエのトゲで手にひっかき傷をつけながら、足場の悪い傾斜地での奮闘でした。だいぶ疲れましたが、天気にも恵まれ、素晴らしい景色を楽しみながらの作業は能率が上がりました。そして何よりも、協会の皆さんと力をあわせ島の観光を支えているという充実感を味わえる作業でした。

町の内、市民の声

たけしのマイレポート（2）

町議選後初めての定例議会が、12月10日から12日まで3日間、役場大会議室で開かれました。この第4回定例会議の初日の傍聴席は立ち見も出るかと思われる大盛況。約30名の住民が詰めかけ、町議会に対する注目度の高まりを実感させました。



10日は私を含む7人が一般質問にたち、それぞれの立場から執行部の政治姿勢を問いながら、町政への提案や要望を述べました。一般質問にたった7人の議員のうち、4人までで午前中の議事は終了。私は5番目に登壇し、午後1時から約40分をかけて質問しました。

私の質問は選挙公約でもあった「ブロードバンドの整備」「ゴミ問題とデポジット」「障害者福祉の充実」の3点（質問要旨は4ページ）。その後の予算決算審議の中でも、選挙公報の発行についてや、今後の航空路線対策、住基ネットと個人情報法保護の問題、などに関する町の取り組みを訊ねました。



この日を含む3日間の議事の中では、地方分権や町村合併に関する町の姿勢、航空運賃の問題、そして町税や水道料など滞納対策も大きく取り上げられましたが、最も大きな問題になったのは管理型最終処分場の問題です。これについては4、5ページにその論点を整理してありますので、参照して下さい。

本議会ではそのほかに14年度予算の補正、および13年度決算に関する審議が行われ、また、それらの議事がすべて終了した12日の午後4時過

ぎには、この議会に住民から提出されていた

●**ブロードバンドの整備を求める請願**

●**八丈高校に養護学校の併設を求める請願**

の二つの請願について私が説明議員としてその趣旨を述べ、それぞれ全会一致で採択し、さらに、関係機関への意見書も議決しました。

本定例議会への出席議員

沖山芳清、小宮山建、奥山博文、山口英治、沖山道、奥山幸子、伊勢崎和鶴右衛、山下松邦、土屋博、菊池孜行、小澤一美、田村六郎、沖山宗春、長戸路義郎（14名）

《この一歩の下》

（1）高速大容量通信回線（ブロードバンド）の整備について

①ブロードバンド整備の重要性をどう認識し、今後どのように取り組むか。②取り組みに必要な経費はいくらか。③財源はどこに求めるのか。

（2）管理型最終処分場建設、ゴミの排出抑制とデポジットについて

①施設建設は町民の合意が重要だが、町長はどう考えるか。②ゴミ減量のための施策をどう進めるか。③デポジットは内外からの高い評価を受けているが、商店の負担を軽くするための見直し策をどう進めるか。

（3）障害者（児）の生活の安定と教育環境の整備について

①障害者（児）が保護者亡き後も島で安心して暮らせるようにする町の責任を町長はどう認識しているか。②建設が予定されているフェニクス農作業所の完成時期はいつか。③八丈高校に養護学校を併設する取り組みへの町の対応は。

早急な建設の請

早急に建設が求められている管理型最終処分場について、一般質問で4人が取り上げたほか、その他の質疑でも議論が沸騰しました。

一部事務組合は、これまで全国で数多く建設されてきたオープン型での



計画を進めてきました。しかし、環境問題に対する関心の高まりの中で、ヨーロッパですでに一般化しているクローズド型が日本でも注目されるようになり、実際に国内での建設事例も増え始めました。けれども一部事務組合は、資金がかかりすぎるとしてクローズド型の建設が難しいことを主張しています。確かに、小さな自治体にと

って負担できる金額に限度がある事は事実であり、非現実的な理想論を振りかざすことは許されません。

しかし、建設費に関する一部事務組合の説明にはいくつかの点で疑問があります。八丈町議会は12日の議会終了後に話し合った結果、同組合に



八丈島が他島に比べリサイクルが進んでいるのはデポジットだけではない。写真のように伐採した木の枝をチップ化して堆肥にする取り組みも進めている（中之郷のゴミ処分場）。

質問状を出し、以下の疑問点について解答を求めることになりました。

まず、説明では、15年間で排出されるゴミを埋め立てるために5万立米の容積が必要であり、そのための施設建設に18億円かかるとしている点ですが、その算出根拠はあいまいです。ゴミ焼却場から出る焼却灰は、これまでの実績から6千立米が見積もられますが、それ以外のゴミが何なのか明確には示

されていません。八丈島ではデポジットや建設廃材の再資源化などでリサイクル率が高いのに、そのことは考慮されず、しかも木の根や木の枝などの一般ゴミもすべて埋め立てる計画になっているようです。要するに、不燃ゴミは何でもそこに入れてしまう計画です。

次に、クローズド型が10億円も高くつくとする根拠です。特に、処分場からしみ出す水の有害物質を取り除くための水処理施設は、オープン型では大雨にも対応できる大きな施設が必要とされます。しかしクローズド型なら、ゴミ安定化のために散水する水を処理するだけなのに、オープン型と同じ規模で計算しています。将来、屋根をはずしたときにその大きさが必要になると説明していますが、それはずいぶんムダな話です。さらに、クローズド型であれば、ゴミにかぶせなければならない被覆土の量はずっと少なくすむはずなのに、これも計算されていません。さらに、クローズド型には国庫補助がないという点についても、最近の国の動向からは必ずしも補助の可能性がないわけではないとの指摘があります。

ところで、この処分場の安全性問題で最も大きいのは焼却灰の飛散や、



三重県四日市市で八丈町デポジットについて講演。

(2002年12月7日)

そこからしみ出す水による周辺地域への影響です。そのためにこそクローズド型を求める声も大きいのであり、この問題を解決できない施設は決して認めるわけにはいきません。

しかし、焼却灰とそれ以外の廃棄物を分けて処理できれば話は違ってきます。焼却灰を含まない廃棄物なら、その処理施設に屋根をかける必要性は大幅に減少する

でしょう。また、焼却灰だけの処分場であれば規模も小さくなり、屋根をかけるとしても少ない予算で済むはずです。そもそも当初は、焼却灰を溶かして無害化する灰溶融施設も併せて建設する計画でした。この施設の建設は先延ばしになったらしいのですが、それとの関連は今後どうなっていくのでしょうか。いずれにしても私は、将来の焼却灰の処理方法を確定しないままでこの計画を進めることは出来ないと思っています。

「クリーンアイランド」を目指す八丈町は、厚生労働省の指示を待つまでもなく、ゴミの減量化と再資源化に全力をあげながら、焼却灰などの有害廃棄物の適正処理には、最優先で取り組むべきです。議会は、一部事務組合の明確な回答を得た上で、未来に禍根を残さない施設の早期建設に向けて、住民と一体となった努力を続けなくてはなりません。

「八丈を変えるニュース」 eメール版もどうぞ

- このニュースは本紙の他にインターネットで配信するeメール版もあります。eメール版はテキスト形式のメールマガジンで、速報性があるニュースです。
- ホームページの更新状況もお知らせします。
- eメール版は以下のページからお申し込み下さい。

<http://home.att.ne.jp/aqua/akn/suporter/magareg.htm>

“期待される議員像”とは？

小宮山万里子

ムカシ、ムカシ、まだ私が純粋な子供だった頃、たしか当時の文部省あたりから“期待される人間像”なんてのが発表されたことがありました。文部省が期待する人間なんてのは何となくわかると思うので、今さら書きませんが（実は覚えていない）、“期待される議員像”は、どんなものになるのでしょうか。

建クンは、木枯らし紋次郎さん（中村敦夫氏）が参加した世界湖沼会議（ホームページ記事を参照してね）で、一人の女性市議と知り合いました。奥山幸子陣営で、小柄で元気な見慣れないおばハン（ゴメン）見かけませんでしたか？ 彼女こそ、その人・今大地晴美（こんだいじはるみ）さんです。彼女のパワーが幸子サイドに活を入れましたねー。

市民派議員、恐るべし！

今大地さんは、選挙期間直前に「市民派議員になるための本」という本を送ってくれました。これをちょっと覗いてみると・・・市民派、と言わ



奥山幸子候補応援の
敦賀市議今大地晴美さん。

れる人たちは、何らかの市民運動をバックに立候補します。運動を担う人と言えば、行動力・実行力・指導力に優れている人が多く、誰が立候補してもおかしくない。そんな中で候補者一人を絞り込み、ほかの人たちは応援隊に徹します。ところが当選すると、一緒に市民運動を推し進めるのではなく、市民運動派の人たちは議員から離れ、当選議員は一人で議員活動を担っていくのです。これは、あらゆる束縛からフリーになるためであり、市民運動というひも付き議員にならないということでしょう。

市民派議員、いさぎよし！

建クンは、特に“市民派”を標榜しているわけではありませんが、クリーンであることは大切にしています。しかし議員というのは…、い

え、私が言うよりも、またちょっと、このご本から引用

「この不況の世の中で、性別、年齢制限なし、準備期間がせいぜい半年で投資額も貯金程度、専門性もいらなくて、年収が500万円から1000万円の仕事がある、と言ったら、おどろく人は多いのではないでしょう

か。本当にそんな仕事があるのでしょうか。」

ハイ、ありますね、答えはもちろん議員さんですね。(ただし町議はこの半分ぐらいですが…)

しかしこの給料額はビミョウです。本気で働けば果てしなく時間は必要だし、お金もいるし、しかも他の仕事との両立はきついでしょう。そういう人にとっては少ない。でも、議会質問はしない、手当の出ない会合には出ない、ナーンにもしない人にとっては、たまらなくオイシイ仕事です。ちなみに、上記の今大地さんは働いていますよ。議会での活躍はもちろん、自費で各地に視察に出かけ(八丈島にも来ています)、研修会で勉強し、何千という折り込みニュースで情報を発信しています。



市民派議員に学ぶべし！

要するに、議員さんは、当選してしまえば自己裁量と権限が出来てしまうわけ。こんなところには監視が必要です。建クンにも必要です。

島の場合、市民派の人たちとは逆の意味で、町民の皆さんのしっかりした関わりをお願いしたいのです。“では、一人で頑張って”などと冷たい事を言わずに、4年間背後霊のようにくっつき、見張り、共に考え、行動して下さい。みんながくっつきゃ恐くない、283名(一票を投じてくれた人の数。これが増えるのは大歓迎)のひも付き議員！！

どうです、クリーンな建クンにぴったりでしょう？

小宮山たけし後援会 会則(抜粋)

- この会は「小宮山たけし後援会」と言います。
- この会は、小宮山たけしとともに、住みよい町づくりのための政治・社会・文化活動をすすめます。
- この会の目的を達成するため、政策を研究・立案し、その宣伝・普及をすすめます。
- この会の会員は、本会の趣旨に賛同する者をもって構成します。